

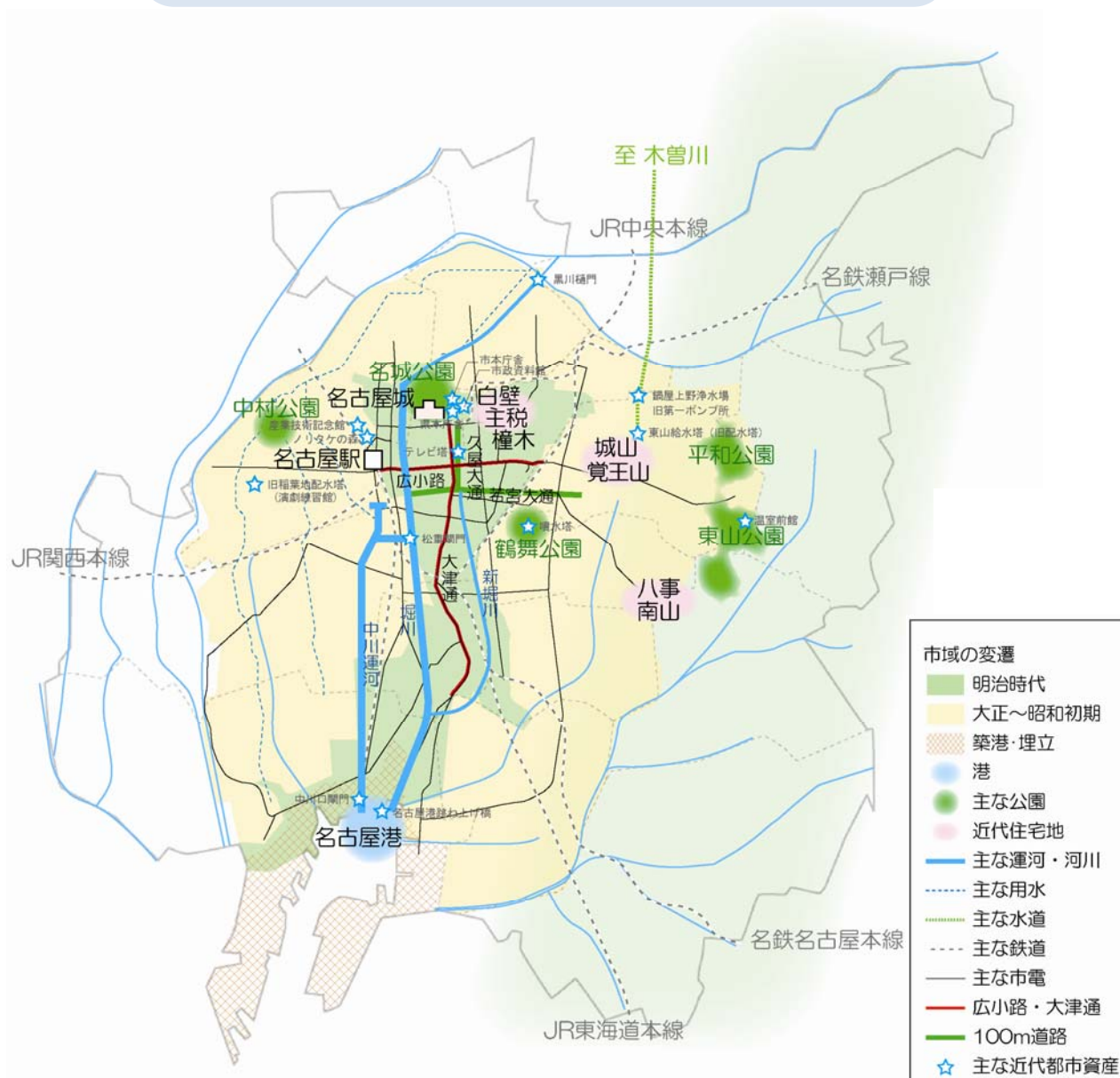
戦略Ⅱ 世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす

世界のものづくりをリードする産業文化都市への発展を支えた都市基盤や往時に活躍した人々に関連する歴史的資源、大胆な都市計画により形成された戦災復興のまちづくり資産などを活用・再生し、成熟社会にふさわしい、環境と人にやさしい都市空間の形成を目指します。

- 方針 1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生
- 方針 2 近代名古屋のハイカラ文化を活かす
- 方針 3 戦災復興により形成された資産を活かす

- 方針 1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生
- 方針 2 近代名古屋のハイカラ文化を活かす
- 方針 3 戦災復興により形成された資産を活かす

- 方針 1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生
- 方針 2 近代名古屋のハイカラ文化を活かす
- 方針 3 戦災復興により形成された資産を活かす



《まちづくり資産を活かした空間形成のイメージ》

方針 1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生

名古屋の近代化・産業発展を支えた都市基盤や、中部圏の産業発展の歴史を物語る産業施設等について、大都市名古屋の骨格を形成した歴史的資源として捉え、これらを活用・再生したまちづくりを推進します。

(1) 近代名古屋の都市基盤を活かしたまちづくり

名古屋の近代化・産業発展を支えた、運河、港湾、公園、水道施設等の都市基盤について、大都市名古屋の骨格を形成してきた歴史的資源として捉え、活用・再生を推進します。

■中川運河の再生

- ・1930（昭和 5）年の開通以来、都心と名古屋港を結び、名古屋の生活と経済の発展を支えてきた中川運河について、運河の持つ様々な特性・資産・ポテンシャルを最大限活かし、有効活用を図ります。
- ・水辺交流環境軸の形成に向け、交流機能、環境機能、防災機能等の向上に取り組み、運河の再生をめざします。
- ・昭和の歴史を物語る歴史遺産である松重閘門、中川口閘門、沿岸の倉庫群、運河に架かる橋梁、名古屋汎太平洋平和博覧会会場の遺構である平和橋など、運河に関連する歴史的建造物等の保存・活用をすすめます。
- ・かつては、花火大会、手踊り、ボートレースなど盛大に開催された中川運河まつりを、運河神社（上宮、下宮）を中心として開催することを目指すとともに、運河の歴史を伝える市民サポーターやガイドボランティアの育成・組織化についても検討をすすめます。

歴史的資源の豆知識 【中川運河と産業】

中川運河は、名古屋港背面において枢要な位置を占める工場地帯と名古屋港とを連携する動脈としてのみならず、市勢発展の中核をなす唯一の血行機関であった。

沿岸工場地帯には、岡谷鋼機、中京金属、中部共同油脂、三鱗無煙炭、日清製紡、旭硝子、瀧上工業、日本燃料、徳島興業、中央木材、日本煉炭等の工場があった。運河沿いには、三菱倉庫、日本通運、名港海運、伊勢湾海運、栃木汽船、浅野運輸倉庫等の倉庫運輸業者が、倉庫や野積場を設置していた。堀止船だまりには、東陽倉庫、三井倉庫、四日市倉庫等が笹島駅に隣接して倉庫を有していた。

昭和 26 年当時の中川運河の主な出入貨物品は、入貨が米穀類、石炭、鉄鉱石、土石（砂利、砂、碎石、煉瓦等）、金属、砂糖、木材、油類、薬品、セメント、塩などで、出貨が陶磁器、金属、鉄鉱石、土石、機械類等であった。

（「中川運河の利用状況について」名古屋港管理組合 昭和 27 年 6 月より）



運河開削時の堀止船だまり



物流最盛期の中川口閘門



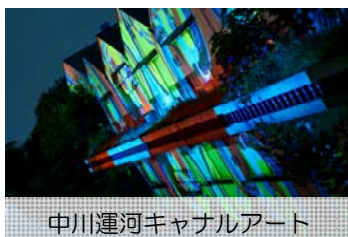
松重閘門



運河神社 (上宮)



猿子橋



中川運河キャナルアート

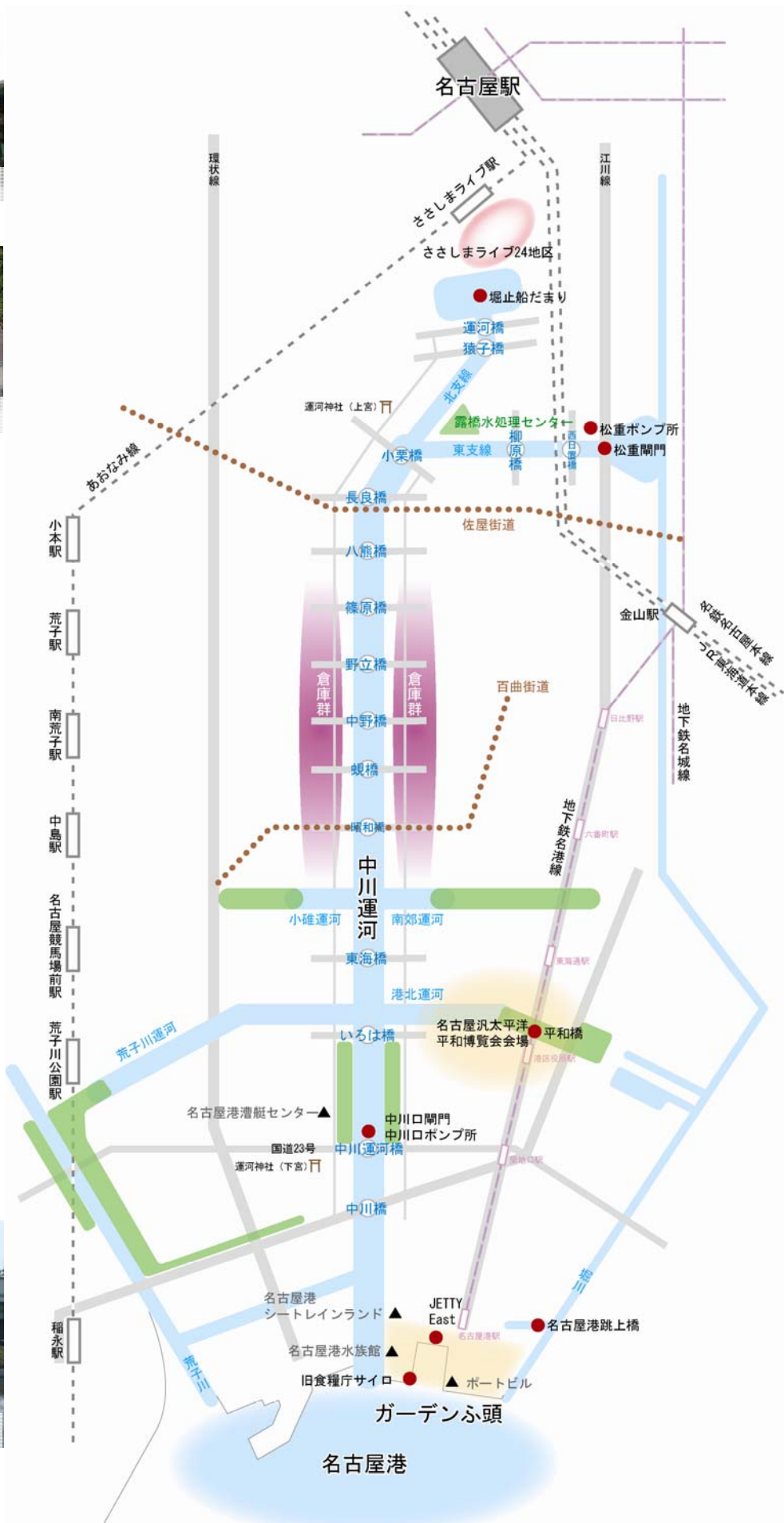
撮影：秦義之



運河沿岸の倉庫群



中川口閘門



■名古屋港（ガーデンふ頭）周辺の魅力向上

- ・名古屋港（ガーデンふ頭）周辺については、名古屋の海の玄関として形成・発展してきた歴史をふまえ、周辺に残る歴史的資源や建造物を保存・活用しながら、水辺環境を活かした観光交流拠点づくりを推進します。



名古屋港ガーデンふ頭



名古屋港跳上橋



穀物サイロを活用した公園

■^{つるま}鶴舞公園の景観・風致の維持向上

- ・開府 300 年にあわせた博覧会を機に、後の製造業発展に大きく貢献した^{しょうじんがわ}精進川（後の新堀川）改修とその^{しゅんせつ}浚渫土砂による造成により整備された鶴舞公園（名古屋市が最初に設置した都市公園）について、公会堂・噴水塔・奏楽堂・普選壇などの歴史的な建物や記念碑の保全を図るなど、風格が感じられる公園環境を継承します。
- ・鶴舞公園内の池や水辺、八幡山古墳など、歴史的な自然環境の維持向上に努めます。



鶴舞公園



噴水塔



^{そうかくどう}奏楽堂

歴史的資源の豆知識 【新堀川】

新堀川は、かつて精進川と呼ばれ 1905（明治 38）年から着工した改修工事の掘さく土をもって熱田工場敷地を埋め立て、その残土をもって鶴舞公園敷地を埋め立てた。1910（明治 43）年に竣工後、新堀川と名称が変更された。沿岸には、日本車両製造熱田工場、名古屋瓦斯（現東邦瓦斯）がそれぞれ建設され、原材料は新堀川から陸揚げされた。その後も沿川には木材業を始めとする会社、工場などが進出し、新堀川は東部商工業地帯における重要な河川として年々その利用が増加し、その出入貨物量は 1937（昭和 12）年にピークに達した。戦後においては、大型工場の転出、陸上輸送機関の増強により出入貨物は急速に衰退し今日に至っている。2010 年は、新堀川が通水して 100 年に当たる。

（一級河川庄内川水系堀川圏域河川整備計画などより）

歴史的資源の豆知識 【^{つるま}鶴舞公園】

鶴舞公園は、明治 42 年に名称を定め明治 43 年、第 10 回関西府県連合共進会会場とした。当時の会場建物は仮設的なものであったが、噴水塔と奏楽堂はひきつづいて使用する公園施設として計画され、名古屋高等工業学校（現、名古屋工業大学）教授鈴木禎次が設計している。

噴水塔は、第 10 回関西府県連合共進会を記念して建設された。本格的な古典主義のデザインに基づく 8 本のトスカナ式オーダーによる円柱をめぐる円堂形式の噴水塔である。市指定文化財。

普選壇は、大正 14 年の普通選挙法成立を記念したものであり、設計は日比谷公会堂など多くの作品を手がけた佐藤功一が担当。簡素な屋外ステージであるが、美しい比例寸法で構成されている。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

■水道施設の保存・活用

- ・名古屋の生活と産業活動を支えてきた水道施設（鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所、東山給水塔（旧配水塔）、旧稲葉地配水塔など）について、その歴史を伝える歴史的建造物等の保存・活用を図ります。
- ・施設の市民開放を推進するとともに、良好なランドスケープの形成を図るなど、まちづくりに貢献する施設整備を図ります。



鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所



東山給水塔（旧配水塔）



名古屋市演劇練習館アクテノン
（旧稲葉地配水塔）

歴史的資源の豆知識 【名古屋の水道】

【上水道】

名古屋に初めて水道がひかれたのは、1663 年、今から約 340 年前の江戸時代でした。勝川(庄内川)から水をひいて名古屋のお堀に入れたもので、御用水とよばれました。さらに、ここから竹のくだや木のといで、井戸やためますに水を送っていました。

名古屋市に現在のような近代的な水道ができたのは、大正 3 年（1914 年）です。それまでは井戸水を使っていたため、赤痢やコレラなどの伝染病が流行し、また火事を消す水も足りませんでした。

このためじゃ口をひねるといつでもきれいな水が出る近代的な水道の建設が必要になっていました。

最初に内務省衛生局顧問であった W・K・バルトン氏によって計画された水道は、犬山市の入鹿池を水源にしていたのですが、その計画は見送りとなり、かわって愛知県技師の上田敏郎氏の、木曽川から水をひく計画が実行にうつされました。

給水開始当時は、給水能力も一日当たりわずか 5 万 1,200 立方メートルでしたが、その後、市が大きくなり人口もふえるにつれ、水道の施設も 8 回の拡張工事をかさね、現在では、給水能力は一日あたり 142 万 4,000 立方メートルとなっています。

【下水道】

明治 26 年（1893 年）、名古屋市は下水道の調査を W・K・バルトン氏に委嘱しました。バルトン氏が作成した「名古屋市下水道工事設計書」は実施に至らなかったものの、本市の下水道計画の基礎になり、10 年後の明治 36 年（1903 年）に本市の委嘱を受けた県技師上田敏郎氏が「緊急下水道計画」を作成し、諸事情によって分流式から合流式に変更し事業を実施しました。明治 41 年に、名古屋の下水道の創設工事がはじまり、大正元年（1912 年）11 月に初めて供用を開始しました。

こののち昭和 5 年（1930 年）に日本で初めての散気式活性汚泥法による下水処理を堀留、熱田で開始し、いち早く近代下水道の整備をはじめています。

市の発展とともに下水道の拡張工事を鋭意すすめ、現在、市域周辺の一部の整備につとめています。

（名古屋市上下水道局）

（２）産業集積地の歴史を活かしたまちづくり

世界のものづくりをリードしてきた、中部圏の産業発展の歴史を物語る産業施設等の保存・活用に取り組むなど、産業集積地の歴史的な経緯を活かしたまちづくりをすすめます。

■産業施設の保存・活用

- ・名古屋の近代化・産業発展の面影を残す古い工場や倉庫等について、コンバージョン（用途転換）に取り組むなど、産業施設の保存・活用を推進します。
- ・産業施設の保存・活用に取り組む産業技術記念館やノリタケの森については、ものづくりのまち名古屋の歴史を今に伝える代表的な施設として、これらの施設を核とした産業観光を推進します。
- ・使われなくなった古い工場や倉庫、空きビルなどを現代芸術の舞台（トリエンナーレなど）として活用するなど、使われなくなった建物に新たな光を当てる取り組みを支援・推進します。



ノリタケの森
（旧日本陶器製土工場）



産業技術記念館
（旧豊田自動織布工場）



あいちトリエンナーレ(長者町)

■土地利用転換時における記憶の継承

- ・産業施設等において、やむを得ず土地利用転換をする際には、周辺の都市形成・産業発展の歴史を振り返り、その歴史がその場所で伝えられるよう、施設の一部を記念碑として保存するなど都市の記憶の継承に努めます。

歴史的資源の豆知識 【名古屋汎太平洋平和博覧会】

昭和 12 年（1937）に現港区の埋立地を会場に名古屋汎太平洋平和博覧会が開催された。これは戦前日本における海外からの参加も実現した最初の国際的な博覧会であり、環太平洋地域から 29 か国・地域はじめ都市の単独参加を含めて、総計 37 か所からの参加をみた。3 月 15 日から 5 月 31 日まで、のべ 78 日間わたる会期中の総入場者は 466 万人に達し、第 2 次世界大戦に突入する前の文字通り平和な祭典となった。

この年には名古屋市街地の東部丘陵地帯に東山公園（動物園・植物園）が開園し、新しい名古屋駅も竣工。駅前の目抜き通りとして桜通も整備され、また市内で初めての国際的なホテルも営業を開始した。

（「開府 400 年記念特別展 名古屋 400 年のあゆみ（名古屋市博物館）」などより）



名古屋汎太平洋平和博覧会 絵葉書
（1937（昭和12）年）
名古屋市博物館蔵

方針 2

近代名古屋の産業発展を担い大都市名古屋の礎を築いた起業家の進取の気風や、大正～昭和初期のハイカラ文化を活かしたまちづくりをすすめます。

(1) 「文化のみち」の推進

市役所本庁舎や市政資料館などの格調高い意匠の近代建築や、近代名古屋において活躍した進取の起業家や文化人が建築した特色ある近代洋風住宅など、多くの歴史的資源が残る名古屋城から徳川園にかけての一带を、「文化のみち」として育み、近代名古屋の息吹が身近に感じられるまちづくりを推進します。

■「文化のみち」の推進

- ・白壁・主税・榎木地区を始め「文化のみち」一帯に残る、特色ある優れた近代洋風住宅などについては、景観重要建造物の指定などを通じて、これらの維持に努めるとともに、NPO などと協働しながら、市民に親しまれる施設としての保存・活用を推進します。
- ・市民公開施設については、展示や企画の充実等により個々の施設の魅力を高めるとともに、施設間の連携や、地域と連携したイベントの実施、市内外へのPRなどを通じて、地域の魅力を高めることにつなげていきます。
- ・名古屋城から徳川園にかけての一帯をつなぐ散策ルートの充実や、観光ルートバスの運行など、「文化のみち」の回遊性を高める方策についての検討を進めます。

- ・市民公開施設については、展示や企画の充実等により個々の施設の魅力を高めるとともに、施設間の連携や、地域と連携したイベントの実施、市内外へのPRなどを通じて、地域の魅力を高めることにつなげていきます。

- ・名古屋城から徳川園にかけての一带をつなぐ散策ルートの充実や、観光ルートバスの運行など、「文化のみち」の回遊性を高める方策についての検討を進めます。



出典：「文化のみち総合案内板」より

歴史的資源の豆知識 【「文化のみち」における主な歴史的建造物】

市政資料館（旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎）【重要文化財】

地方裁判所と区裁判所を含む名古屋控訴院の庁舎として大正 11 年（1922）に建設。全国 8 か所に建てられた控訴院のうち現存する最古の庁舎。正面ドーム屋根の塔屋を設けたネオ・バロック様式の 3 階建てで、赤い煉瓦壁と白い花崗岩の対比の美しい日本の近代建築における大正末期の動向を忠実に表現した官庁建築である。

昭和 55 年（1980）より活用方法が検討され、改修後平成元年（1989）名古屋市市政資料館として開館した。

文化のみち二葉館（旧川上貞奴邸）【登録文化財（一部）、景観重要建造物】

かつて二葉御殿と呼ばれたこの建物は、電力王と称された福沢桃介が国内最初の女優と言われる川上貞奴のために大正 9 年（1920）頃、わが国最初の住宅専門会社アメリカ屋に造らせた邸宅の遺構で、2 階建ての主屋と別棟の蔵で構成される。

平成 16 年 10 月に現在地に移築復元され、現在は、文化のみち二葉館として活用されている。

文化のみち榎木館（旧井元為三郎邸）【市指定有形文化財、景観重要建造物】

陶磁器商として活躍していた井元為三郎が大正末期から昭和初期にかけて建てられた邸宅。約 600 坪の武家屋敷の敷地割に、庭を囲むように大正浪漫あふれる洋館、和館、茶室があるほか、裏庭に東西二棟の蔵が残されている。洋館には、当時の流行を先取りしたステンドグラスがあり、現在は、喫茶室も併設されている。

旧豊田佐助邸

豊田佐助は、自動織機の発明で世界に名を馳せた豊田佐吉の実弟で、大正 12 年（1923）に佐助の邸宅として建てられた。白いタイルの洋館と広い間取りの和館からなる。戦後期（昭和 20 年代前半）は米軍に接収され、高級将校用住宅として使用された。その後、昭和 45 年（1970）にアイシン精機株式会社に所有権が移り、社員寮として使用されていた。

旧春田鉄次郎邸【景観重要建造物】

陶磁器貿易商として成功し、大洋商工株式会社を設立した春田鉄次郎が、武田五一に依頼してつくった住宅といわれている。昭和 22 年（1947）から昭和 26 年（1951）まで、米軍第 5 航空隊司令部により接収されていた。現在 1 階洋館部分は、レストランとして活用されており、中庭をはさんだ和館部分は公開施設として利用されている。

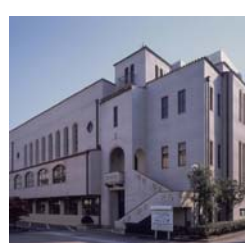
金城学院高校栄光館【登録文化財、都市景観重要建築物】

スペイン瓦に清楚な白壁が美しい建物。当時の栄光館の建設費 17 万円は生徒の毎月 10 銭の積み立て、先生の毎月給料の中から寄付、父兄会の募金などによって集められた。創立 90 周年の際、建て替え案が出されたが、故近藤武一学長の強い意志で残された。

名古屋陶磁器会館【登録文化財、景観重要建造物】

昭和 7 年（1932）に、当時の名古屋陶磁器貿易商工同業組合の事務所として建設された。鉄骨タイル張り 2 階建て（一部 3 階建て）のビルは、名古屋の陶磁器業界の力を内外に示す役割を果たした。

（「景観重要建造物に関する現況調査報告書」などより）



(2) 近代住宅地の景観・風致の維持向上

ハイカラ文化を今に伝える、名古屋東部の城山・覚王山、八事・南山界隈の近代住宅地の景観・風致の維持・向上を図ります。

■城山・覚王山界隈

- ・城山八幡宮・日泰寺等の寺社、揚輝荘・旧昭和塾堂等の歴史的建造物、末盛城跡等の史跡を有する城山・覚王山界隈においては、多様な歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組むとともに、起伏に富んだ地形や小立の緑を大切にし、緑豊かで特色のある住宅地としての景観・風致の維持・向上を目指します。
- ・歴史的環境を大切にした参道の賑わい創出や、界隈の魅力を活かした地域の文化活動（音楽祭や茶会等）の取り組みとも連携し、界隈の魅力向上に努めます。



やまのて音楽祭



日泰寺



日泰寺参道



東山給水塔（旧配水塔）



末盛城跡



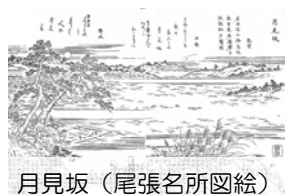
城山八幡宮



旧昭和塾堂



四観音道の道標



月見坂（尾張名所図絵）



■^{ようきそう}揚輝荘の再生・活用

- 近代名古屋の郊外別荘の代表作で、城山・覚王山界隈に立地する「揚輝荘」（平成19年に名古屋市に寄贈）は、聴松閣などが存する南園、伴華楼・白雲橋などが存する北園について、段階的に修復・整備を進めながら、歴史と文化が感じられる質の高い市民利用施設として、NPOなどと共にまちづくり・文化活動の拠点として活用していきます。



聴松閣



白雲橋



三賞亭



伴華楼

歴史的資源の豆知識 【揚輝荘】

揚輝荘は、松坂屋の初代社長伊藤次郎左衛門祐民によって構築された別邸である。完成時（昭和14年頃）には、約一万坪の敷地の中に三十数棟の各種建造物が建ち並び、池泉回遊式庭園とともに、覚王山の高台に威容を誇った。かつては、各界要人や文化人が往来する迎賓館、社交場として華やき、またアジアの留学生が寄宿して国際的なコミュニティを形成していた。

その後、世の移ろいを経て残された近代建築は文化遺産として、また、庭園緑地は都会のオアシスとして、今や市民共有の貴重な財産となっている。



揚輝荘（昭和14年頃）
揚輝荘主人遺構、竹中工務店発行



揚輝荘（昭和14年ごろの配置図）



揚輝荘（現状図）

■八事・南山界限

- ・八事・南山界限は、国の重要文化財に指定されている興正寺五重塔を始めとする様々な歴史的資源や、名古屋初の土地区画整理組合事業により形成された、戦前の質の高い郊外住宅地の歴史・環境を継承し、緑豊かでゆとりある住宅地としての景観・風致の維持・向上を目指します。
- ・起伏に富んだ東部丘陵の緑を活かしながら良好な景観・風致を形成してきたキャンパス街（大学街）周辺の、歴史・文教環境を継承します。



興正寺公園周辺の緑地

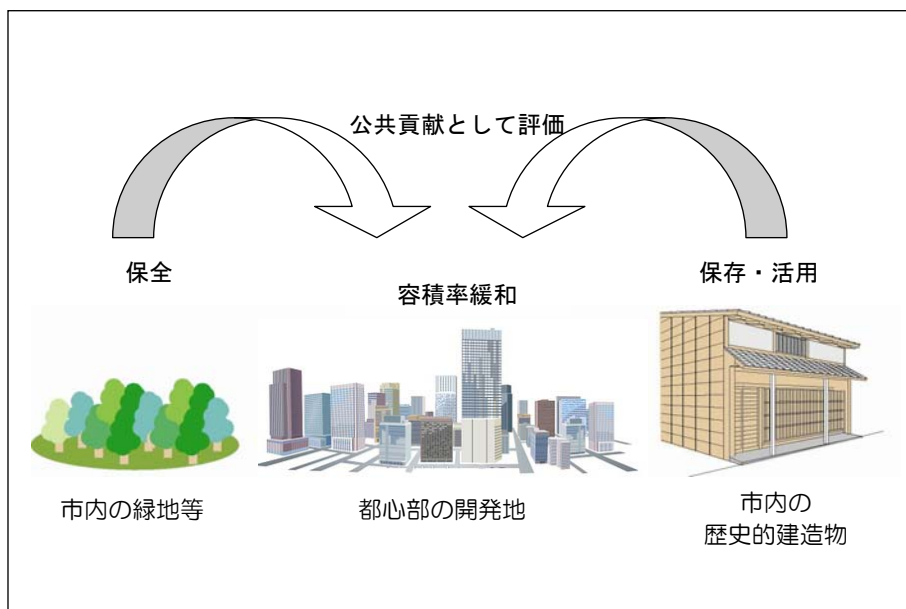


(3) 近代建築の保存・活用

市内各所に残る近代建築について、近代都市化の息吹を伝える歴史資産として捉え、保存・活用を図ります。

■近代建築の保存・活用

- ・都心部の目抜き通り（広小路通・大津通など）に時を刻む近代建築は、近代名古屋の都心文化を象徴・継承する貴重な歴史的資源であることから、景観重要建造物の指定などを通じて、保存・活用に努めます。
- ・都市再生特別地区などの都市計画制度、建築基準法による総合設計制度などを利用して、近代建築の保存・活用を誘導し、都心の文化・賑わいの創出に活かします。



- ・大正～昭和初期に建てられた質の高い近代和風住宅・洋風住宅などについては、高い水準にあった当時の建築技術・建築材料やモダニズムの意匠を伝える貴重な文化資源であるとともに、緑豊かな庭と一体となって良好な都市景観をかたちづけてきたことから、景観重要建造物の指定などを通じて、これらの保存・活用に努めます。
- ・旧市域東部の住宅地に数多く残る洋館付和風住宅などレトロな魅力を持つ住宅建築については、地域の景観や生活文化を伝える歴史的資源として保存・活用するなど、地域のまちづくりに活かします。
- ・新たに建築を行う際には、材料、デザイン、周辺との調和等に配慮しながら、将来的な歴史的資源となるように努めるとともに、そのような取り組みを誘導・支援します。



旧名古屋銀行本店(広小路通沿道)



三井住友銀行(広小路通沿道)



愛知県本庁舎(大津通沿道)



大津通沿いの近代建築



洋館付和風住宅

■市所有の近代建築の保存・活用

- ・昭和初期の帝冠様式を代表する近代建築である市役所本庁舎や、公会堂など市所有の近代建築については、近代工法を取り入れた先駆的な建造物として建設された貴重な建造物としての価値を踏まえながら、保存・活用に取り組みます。
- ・市役所本庁舎については、イベントなどの機会における市民への公開や、テレビドラマや映画の撮影などを通して、市民に親しまれる市庁舎としての活用を推進します。
- ・近代名古屋において、特色ある意匠により設計された橋梁等の建造物については、それぞれの独特の意匠の継承・修景を図るなど、歴史が感じられる景観の維持・形成に努めます。
- ・市所有の建築物・建造物の整備や改修にあたっては、地域の町並み・歴史的な背景をふまえた設計に取り組むなど、歴史環境に配慮した公共施設整備を推進します。
- ・名古屋市が管理する市政資料館（旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎）については、国の重要文化財として保存・公開しつつ、施設の貸出などさらに市民に親しまれる施設としての活用を推進します。



市役所本庁舎



市役所本庁舎内部



市政資料館

(旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎)



大津橋の欄干



公会堂

歴史的資源の豆知識 【市役所本庁舎】

大正 10 年（1921）に名古屋市は隣接する 16 か町村を編入し、大都市としての様相を帯びてきた。名古屋市庁舎としては、明治 42 年（1909）以来の木造庁舎をそのまま使用してきたが、昭和 3 年（1928）11 月の市会において、現在地に建築されることとなり、昭和 8 年（1933）9 月に完成した。建築様式は、昭和時代初期のナショナリズムの台頭を背景に、近代主義建築に対抗して生まれた建築様式である。鉄骨鉄筋コンクリート造りの現代建築に、和風の瓦屋根を載せるのを最大の特徴とする「帝冠様式」といわれるものである。

大津通に面する中央に正面玄関があり、中に入ると中央広間、正面に階段がある。正面玄関の床は花崗岩、上り段は大理石、上部床はモザイク大理石張り、壁はヒシヤ石張り。中央広間は、床、壁、階段手摺り、踏み面は大理石張りとなっており、この庁舎の見所のひとつとなっている。

（「愛知県の近代化遺産」などより）



市役所本庁舎

方針3 戦災復興により形成された資産を活かす

大胆な戦災復興計画によって形成されたまちづくり資産を、環境と人にやさしい都市空間として再生するなど、新たなまちづくりを展開します。

(1) 都心のゆとりある都市基盤を活かしたまちづくり

戦災復興計画により生み出された都心部の広幅員道路等をはじめとする、ゆとりある公共空間を活かした、新たなまちづくりを展開します。

■広幅員道路を活かした交通まちづくり

- 江戸期の碁盤割を引き継ぎながら整備された広小路通などの都心部の広幅員道路においては、社会実験を通じた自動車交通の制御や、緑陰空間の創出などゆとりとうるおいが感じられる道路構造への転換を目指した検討を進め、環境と人にやさしい交通まちづくりを推進します。
- 広幅員道路の整備とあわせて形成された、名古屋特有の都市資産である地下街については、サンクンガーデンやアトリウム等の広場空間の充実やバリアフリー化をすすめ、地上の沿道建物や広幅員道路との連続性を高めるなど、歩行者の立体的な回遊性を向上させます。



なごやカーフリーデー

歴史的資源の豆知識 【広小路通】

名古屋の城下町が建設されて半世紀が経過した 1660（万治 3）年 1 月、世にいう万治の大火が発生し、碁盤割城下町のほぼ東半分を焼失してしまった。そこで尾張藩は、火の延焼が止まった、上町の南端、堀切筋の長者町から久屋町までの 7 街区に面する道路を拡幅し、火除け地の役割を持たせた。これが広小路で、道幅は約 15 間とされる。広小路は城下町を南北に貫通する本町通と交差しており、人々が集まりやすい場所であったため、人々が集まる賑わいの場に、いわば「都市広場」になっていった。

明治維新後、文明開化の象徴である名古屋郵便局と名古屋電信局が広小路本町の角に造られ、また広小路の東端に愛知県庁舎、名古屋警察所、名古屋区役所などが建設された。かくして、広小路の役割は「民の広場」から「官の広場」へと変化した。その後、城下町西郊外の笹島に、東海道線の駅である名古屋停車場が建設されることになり、広小路が西に延長されることになる。その後、国有鉄道中央線が計画されたことから、城下町東郊外に鉄道駅ができることになり、広小路が千種まで東進することとなった。広小路は、名古屋の都心を貫通する幹線道路の位置づけを与えられることになったため、笹島から県庁前まで市内電車が開通した。

名古屋随一となった広小路では、パレードなどが行われ、名古屋のハレの場としての性格を与えられた。大正期から徐々に自動車の利用が多くなり、自動車時代が到来した。昭和 12 年、笹島の名古屋駅が北方に新築移転したため、これに合わせ新しい幹線道路として桜通が開通した。戦後、戦災復興計画により、幅員 15 間～10 間であった広小路は、幅員 30m と決められた。また、戦災復興計画において、戦前からの宿願であった、高速度鉄道の建設が進められることになり、広小路に並行して走る錦通の地下を利用して、昭和 32 年、名古屋・栄町間 2.4km において、名古屋で最初の地下鉄が開業した。同時に名古屋駅前、伏見町、栄町に地下街が建設された。

一方、市電は徐々に廃止され始め、昭和 49 年（1974）までに全ての市電が廃止された。さらに、広小路の屋台は不衛生だとして、昭和 48 年（1973）3 月 31 日の夜を限りに、姿を消した。市電や屋台の撤去により、広小路は幹線道路としての役割を強化し、賑わいの場としての広小路の性格を大きく変えることになった。

（「社団法人日本都市計画学会中部支部創設 20 周年記念誌」などより）

■久屋大通の再生

- ・久屋大通については、大胆な都市計画により生み出された都心の大規模公共空間の機能・構造を見直すなど、都心の魅力空間として日常的な賑わいが創出されるよう、再生に向けた検討をすすめます。
- ・久屋大通沿道については、都市景観形成地区による誘導等により、スケールの大きな空間と豊かな緑にふさわしい品位ある洗練されたデザインの街並み形成を図ります。また、都心の商業地としての賑わい創出に努めます。



■テレビ塔の活用

- ・久屋大通内にあるテレビ塔については、日本初の集約電波鉄塔として建設され、広く情報発信の役割を担った歴史的価値をふまえた保存・修復を図りながら、都心の魅力発信拠点・ランドマークとして活用を図っていきます。



歴史的資源の豆知識 【100m道路と名古屋テレビ塔】

名古屋は戦後、復興計画をどこよりも早く昭和20年（1945）12月、名古屋市の「中京再建の構想案」の発表で立ちあげた。その計画の目玉に100m幅をもった2つの基幹道路計画が含まれていた。この2つの100m道路は名古屋市街の中心でクロスし、火災等災害を防止し避難所になる目的をもつもの。その道路の一つが久屋大通、もう一つが若宮大通である。昭和38年（1963）、100m道路としての久屋大通は18年間を要して完成したが、この事業は戦災復興という全国民的課題とともに関係市民の全面的な協力によって成し得た画期的な事業である。

このように誕生した久屋大通・若宮大通は、その後、周辺地域の都市開発とともに整備が進み、とりわけ久屋大通については、都市公園として名古屋を代表する都心のオアシスとして成長した。

また、この地域の総力を結集した大事業に名古屋市街地を走る100m道路整備計画にあわせた名古屋テレビ塔建設がある。これは日本でテレビジョン放送が開始されることを機会として全国に先駆けた東洋の「エッフェル塔」を建設しようとするものであった。愛知県、名古屋市、郵政省（現在の総務省）、NHK、CBC、中京財界など、まさに官民一体となった地域の総力を結集した大プロジェクトである。

工事期間は9か月間という技術が進んだ現在でも考えられないほどの早さで、日本初めての「集約電波鉄塔」が誕生した。まだ、街には戦災の足跡が残る昭和29年（1954）6月のことである。直ちに全国的に知れ渡りテレビ電波の送信鉄塔とともに観光タワーとしてもたちまち爆発的な人気となった。

テレビ放送は日本の戦後復興政策としての役割を担い、白黒放送からカラー放送へと、皇太子殿下ご成婚から東京オリンピック放送など着実に茶の間の主役として急速な普及を遂げ、日本の文化の向上に大きく貢献することとなった。平成23年（2011）7月にはすべての地上テレビジョン放送がデジタル放送に移行することとなっており、これまでの役割を終えることとなった。

（「社団法人日本都市計画学会中部支部創設20周年記念誌」などより）

（２）東山の森の再生

東山の森の一部でもある平和公園は、戦災復興土地区画整理事業の一環として、市内の寺院墓地の移転集約先として整備されたものです。こうした戦災復興計画を支えた平和公園及び東山公園において、東山の森の再生をすすめます。

■なごや東山の森づくりの推進

- ・都市に残された身近な森を保全し、手入れが途絶えて荒廃した森を健全な里山に再生します。
- ・散策路など安心して自然とふれあえる場所をつくり、自然観察会など誰もが気軽に自然に親しめる機会を増やします。
- ・体験・体感を通じて自然を楽しく学べる環境学習を推進します。

■東山動植物園の再生

- ・開園当時の建造物や大きく育った樹木、都会の中に残る豊かな自然などの今ある魅力を大切にしながら、もっと身近にもっと楽しく自然とふれあうことができる「歴史と文化に育まれた人と自然のミュージアム」になることを目指します。
- ・「東洋一の水晶宮」と称された温室や正門をはじめとする歴史文化的施設や景観を大切にしたい空間づくりをすすめます。



平和公園



東山植物園の温室（重要文化財）

歴史的資源の豆知識 【平和公園】

戦後行われた復興土地区画整理事業における大きな特色の一つとして、墓地の集中移転がある。都市の中心部の墓地は、あらゆる面で都市計画の障害になっており、環境的にも、美観上も好ましくない状態であった。

そこで、本市では、市街地の環境整備を図るため、本事業のなかで墓地の集中移転を計画し、昭和 22 年 2 月東山公園に隣接する丘陵地帯 115.7ha をあらたに施行区域に編入し、事業地区内の寺院 279 カ寺の移転を計画した。

墓碑の移転については、当初、宗教上の因習や感情に大きく支配され、また地区内の関係寺院がほとんど罹災して、寺院自体の復興に忙殺されており、極めて困難な状態にあった。

昭和 21 年 6 月 17 日、関係する仏教各派から 16 人の代表者が選出され、名古屋市復興墓地整理委員会が結成された。同委員会は、墓苑の計画、各宗派の意見の調整などに尽力したが、墓地の移転についても各委員がそれぞれ同宗派の寺院を担当して説得にあたり、これら委員の説得によって同意を得た例も多い。

現在、平和公園内の墓地は、各寺院で管理しており、また、平和公園内の諸施設を充実させるため、墓地の管理者等で組織する名古屋平和公園会が置かれている。なお、名古屋市戦災復興墓地整理委員会は、ほぼ墓地移転が完了した昭和 38 年 11 月、発展的に解散し、業務資産、及び権利を新しく、発足した名古屋市平和公園会に引き継いだ。（「戦災復興誌」などより）